

ポイント5 早いほど負担が少ない

“教科書が読めない”では困る

「塵も積もれば山となる」の諺の通り、一日に僅か一字ずつでも、ひと月には30字、一

年には365字。三年経てば一千字を超えるのです。

「小を積んで大を成す」の努力が何よりも大切だと思うわけです。

三歳の頃からこの学習法を実践しますと、小学校に入学する前に一千字以上の漢字を身に付けてしまいますから、まだ小学生にもならないうちから、今の中学生以上に書物が読めるようになります。こうなると、読書が楽しく出来るようになり、学校が好きになります。

だから、幼児期のうちに一千字の漢字をぜひとも身に付けることをお奨めします。幼児期の漢字学習は、幼児の楽しみにこそなれ、決して負担にはなりません。この時期を無為に過ごして、苦労させて小学校で漢字学習をさせてはなりません。苦労して覚えられる確信があるのなら結構です。しかし、七割の子供は失敗しているという現実だけは頭に置いてください。

漢字は、あらゆる教科学習の基礎力です。漢学力が強ければ強いほど、教科書を読取るのに要する時間が少なくて済み、その上、理解度が深いので、すべての教科学習の能率が非常に高くなります。

コラム

部首 車

二輪車を象った象形字。

【軒】 ふせぐ意味の干と車との会意形声字。“戦車”が本義。「戒軒」(戦車)。矢を防ぐように覆いが設けられていて転じて、“覆い”“家ののき”の意味を持った。太夫以上の身分の者が乗る車を軒というのは、日光や雨風を防ぐ“覆い”のある車であるため。